

子育てかわら版

所沢市立宮前小学校
令和5年度

No.01



親が好奇心を追求する

「親が好奇心を持って楽しく学ぶ」という新聞記事を目にしたのでご紹介します。

<最近の研究から>

- 「完璧な親であれ」という社会的圧力が親の精神的苦痛を高めている。
- 親が幸せであるほど、子供の幸福度が高くなる。
- 生き生きと生活や仕事をしている親の姿に接することが、子供たちにとって安心と幸せを感じ、チャレンジする気持ちが芽生えてくる。

<親の幸せ感を高める>



好奇心は生き生きとした生活の原動力ですが、大人になるにつれ、周囲の人や常識に合わせることで重視されてきます。素直な気持ちにふたをすることを意識しすぎると、楽しむことよりも我慢することが生活の中心になってしまい、その様子は子供にも伝わります。逆に、親が生き生きとしていれば、子供にも伝わり、興味のあることに没頭するようになります。

<大人になっても好奇心を保てるようにするには>

- ◎やってみたいことや実現すると嬉しいことを自由に書き出す。
 - ・空想や妄想でも構いません。
 - ・実際にできるかではなく、できたらうれしいものを書く。
 - ・自由気ままに書く。
- 今すぐにではなくても、いつか一歩踏み出せる時が来るかもしれません。大人も子供もワクワクすることが大切です。「見える化」しておくことがポイントです。



夢は見るものではなく、叶えるもの

英語「Dream」＝①叶うもの ②強く願えば現実になるもの
日本語「夢」＝①はかないこと ②現実から離れた甘い考え

日本ではネガティブに捉えがち

「夢のない子供」と「夢を聞いてあげない大人」が増加

- ◎なぜ「夢」が必要なのか？→目標だけでは燃え尽きてしまうから

夢は目標のもっと先にあるもの、だから夢があると燃え尽きない

- ◎夢や目標を「願望」にする

「願望」＝「ワクワクする将来のイメージ」

子供に「願望」持たせたいなら、親自身が願望を持って頑張る姿を見せることが大切です。

親が夢に向かってワクワクする姿は、必ず子供に伝わります。

ドリームキラーでなくドリームクリエイターとしての親の姿を見せたいものです。